

北城南部地区ほ場整備エリアの地域計画策定に関する農業委員会との打合せ

- 1 日 時 令和6年1月24日（水曜日） 14時00分から15時10分
- 2 場 所 白馬村役場 2階 201・202会議室
- 3 農業委員 松沢正猛（農業委員会会長）、太谷正治（職務代理）、松澤利彦、
下川浩紀、塩島秀基、福島利文
武田克明（北城南部ほ場整備実行委員長）
- 4 白馬村役場農政課 田中課長、柏原係長、大塚係長、大谷主事、藤本主事、久米主事、
田中集落支援員
- 5 白馬村営農支援センター 降旗次長
- 6 北城南部農業支援センター 佐原専門幹
- 7 欠席者 （農業委員）太谷敏也、津滝晃憲、津滝明子
- 8 協議事項

北城南部地区ほ場整備エリアの目標地図の担い手について

9 会議内容

(1) 開会

田中農政課長

南部地区のほ場整備エリアの地域計画目標地図の打ち合わせを行う。令和5年11月に懇談会を開催したが、今回はほ場整備のエリアに絞って話し合いをする。農業委員会は目標地図を作成し、令和7年3月までに公表する必要がある。このため今年11月を目途にある程度の目標地図を作成する必要がある。

(2) あいさつ

松沢会長

武田委員長中心に進めてきた事業に終わりが見えてきており、全体の地図を作成する段階になってきているかと思う。欠席している委員もいるが、話し合いを進めていきたい。

武田北城南部ほ場整備実行委員長

北城南部地区のほ場整備について、第1工区と第2工区は終了し営農分担の割り当てが決まり、耕作を開始している。第3工区と第4工区については、令和6年一部耕作可能箇所を除きまだ、担い手への割り振りが未定である。

工事は来年度完了する予定であるが、地権者の登記は令和7年度までかかる見込み。今日の会議では皆の意見を参考に、ほ場整備内での目標地図の作成をして

いきたい。

(3) 北城南部地区ほ場整備エリアの目標地図の担い手について

柏原土地改良係長

ほ場整備事業は平成30年から始まり、経営体育成基盤の整備を目指している。ほ場整備は40.8ヘクタールの面積で行われている。区画数は1工区から4工区まであり、1工区と2の1工区、2の2工区は既に工事が完了している。残っているのは第3工区と第4工区である。

令和6年度の作付けは一部待機となる見込みである。集積集約を目指し、主な担い手耕作者（北城の農業法人2者、認定農業者、一般農業者等）を考慮して進めている。

田中農政課長

地域計画は法律事項として令和7年3月までに作成が必要である。10年後を見据えた地図作りの必要性があり、地域と担い手を結ぶ計画を立てる必要がある。また各種補助金の条件になるとみられるため計画作成が不可欠となっている。

ほ場整備事業を行っている場所については、畑の面積が大きい北城地区の担い手の方だけでなく神城地区の担い手農家の方にも入ってもらう検討が必要と考える。

今後はソバや大豆ではなく高収益作物の生産が重要であり、集積、集約の関係で1町歩単位で畑と田をセットで考えてほしい。

北アルプス農業農村支援センター 佐原専門幹

令和6年からは土づくりで緑肥を県と協力して行っていくため、高収益作物の生産については今後検討していきたい。

福島委員

急に3～4町歩の高収益化作物は難しいため、現在試験を行っている。白ネギを2年間栽培し、思いのほか上手く育ったため令和6年も栽培をしていく予定である。出荷に関して、今まではJAで白ネギの皮むきをして貰っていたが、今後は皮むきを機械化個選すると、収益が上がる可能性がある。そのため、自社で箱詰め作業までして出荷を検討していきたい。

松澤委員

高収益作物について、どのようなものを候補としているのか。

武田北城南部ほ場整備実行委員長

アスパラガス等も候補にあったが、現在は白ネギである。土づくりのための堆肥や試験を行いながら栽培している。

松澤委員

神城の担い手農家は田と畑をセットで耕作する必要があるのか。それとも神城の担い手農家は畑のみ耕作するのか。

武田北城南部ほ場整備実行委員長

北城の担い手農家が中心となることを考えているが、神城の担い手農家にも田と畑、両方耕作することで、協力してもらえればと考えている。

松澤委員

北城、神城の担い手を平等に扱ってもらえるのならば、参加するかもしれない。

松沢会長

(有)マイテカルが籾殻を用いて白ネギを栽培したら、思いのほか上手く栽培できていた。また、高収益作物には果樹があり、果樹農家を誘致し果樹を栽培するのも方法の一つであるが、地主が嫌がる可能性が高い。

武田北城南部ほ場整備実行委員長

低木の果樹であれば、理解を得られるかもしれない。

太谷職務代理

一部の農業者が栽培しているヘーゼルナッツというのもおもしろいのではないか。

松沢会長

ほ場整備完了後2～3年かかる土づくりの間に何を栽培していくか考えていきたい。高収益作物である白ネギは自前の機械で皮むきを行い、収益を出すことでモデルとなって欲しい。

北アルプス農業農村支援センター 佐原専門幹

耕作するために、土をいじると大きな石が出てきてしまう。

武田北城南部ほ場整備実行委員長

1工区と2工区の土は大町市から持ってきたが、石が非常に多かった。千曲川流域の流れた土を持つてくることができれば良かった。

下川委員

田の耕作面積を2町歩程度増やしたいと考えているが、単独では畑の耕作をするのは難しい。共同でネギの機械を利用できれば可能である。

武田北城南部ほ場整備実行委員長

機械補助申請は、個人及び法人で申請していただくことになると思うが、実際には共同で作業することができるかもしれない。

自作で行っている方は10年後に耕作できなくなっているかもしれないため、調整が必要である。

田中農政課長

現在、新規就農者や若い就農者は、園芸作物を主に作付けしている人もいる。その方々が村の補助金を活用しながら取り組んでいただければ、10年後良い物が出来ているのではないかと思う。

引き続き検討をお願いしたい。